

2024年2月11日

百里初午祭・9条の碑除幕式へのメッセージ

百里弁護団 内藤功

初午祭・9条の碑除幕式の準備、設営に当たられた地元の皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

ことは、アジア太平洋戦争終結して79年です。

79年前の1945年8月15日の正午、戦争終結を告げる昭和天皇のラジオ放送をききました。

当時、ここ百里基地は、日本海軍航空隊の基地でしたが、この放送の数時間前、8機の特攻機が出撃し、16人の若者がついに帰りませんでした。

日本国憲法9条のもと、もう2度と戦争はしない、軍隊も基地もいない、滑走路や軍事施設は全部こわして農地に変えろ、食料をつくれと、県内外・国外からの開拓民の方々が農業に苦勞されてきました。

ところが、1954年、航空自衛隊が米空軍指導のもと新設され、1955年以降、百里を再び戦闘機基地にするための農地買収工作が始まりました。しかし、基地反対の方々は、「カネをいくらつまれたって戦争のためには土地は絶対売れません。平和のためなら、タダでもあげます」という気概で、反対同盟に団結してたたかってきました。

百里弁護団ともに、「自衛隊は憲法違反」と正面から主張して、最高裁まで裁判闘争を31年間たたかいました。

この力におそれをなしたか。基地のど真ん中にある、ここ平和公園、平和稲荷の土地を避けて、誘導路を作らざるをえなくなりました。

この百里のたたかいの歴史を、次の世代にしっかりと伝えていきたいと思えます。

射撃場山から基地を見下ろす「自衛隊は憲法違反」の大看板。そして本日建立された「9条の碑」は、未来永劫に、平和を守る礎になると確信します。

いま岸田自民党政権は、「裏金事件」で国民の激しい怒りにあいながら、依然として軍備拡大の暴走を続けています。新型の長距離ミサイルを戦闘機に搭載装備するなど、外国を攻撃する能力の強化を進めています。このような侵略戦争のために、航空自衛隊員の尊い生命を犠牲にしてはなりません。

本日、平和への決意を固め、大いに交流し、団結を固める日となるように願って、ごあいさつと致します。